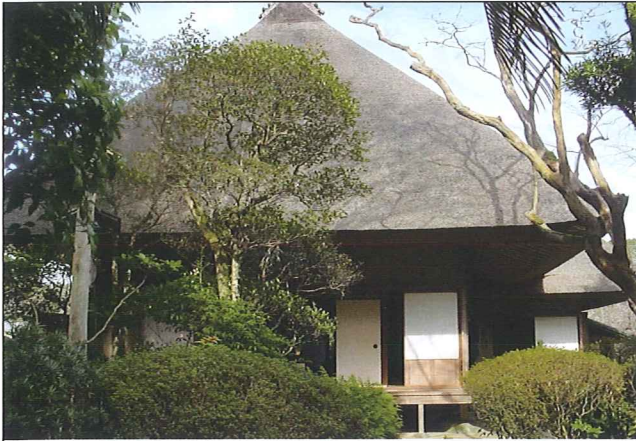


四季彩豊かな大洲



【臥龍山荘】

数奇屋建築の粋を極めた明治時代の別荘で、かの故黒川紀章氏をして花数奇という分野を命名させました。和の風情が心をうつ、静かで美しい佇まいの名建築です。四季折々の風情を醸し出す庭園の眺めは日本人の心を揺さぶります。



【大洲城】

大洲城は明治21年に天守閣が取り壊されましたが、平成16年に明治期の古写真や江戸期の木組模型などの史料をもとに4層4階の天守が木造で復元され、今も木の香りが漂います。現代の匠の技術が当時の建築物を再現した貴重な建物のひとつです。



【大洲のうかい】

日本三大鵜飼いのひとつ大洲肱川のうかい。かがり火を灯した鵜船に時代絵巻さながらの鵜匠の姿、鵜が鮎をくわえて水中から上がる姿を見ると過去にタイムスリップしたかのようです。また明るいうちのうかいを行う「昼うかい」も実施しています。



【元祖大洲のいもたき】

藩政時代から伝わる大洲の秋の風物詩。大洲産の里芋は型崩れせず甘くて美味しいことで有名です。ライトアップされた大洲城と名月を愛でながら、河原で食べるいもたきは絶品です。



【おおず赤煉瓦館】

大洲商業銀行として建てられたおおず赤煉瓦館は、イギリス積みの赤いレンガの壁に和瓦を葺いた寄棟造りの屋根という和洋折衷様式の建物で、明治後期のレンガ造り銀行としては南予唯一のものです。